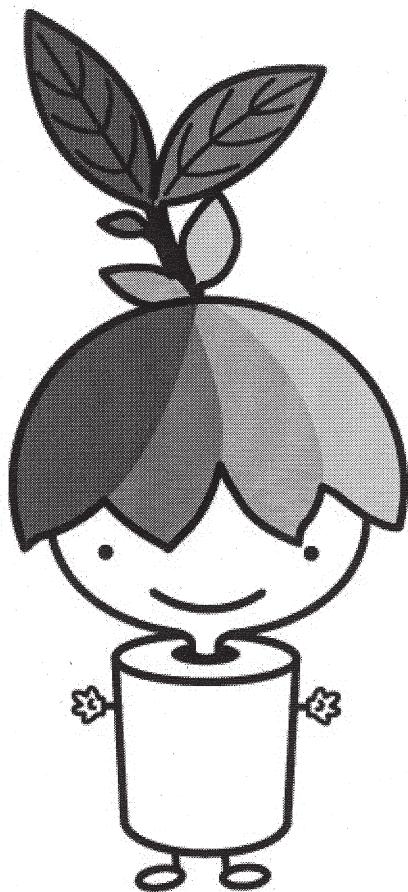


平成18年度

福島県の一般廃棄物処理の状況

(平成19年3月末現在)



リーフィンクル

福島県ごみ減量化・リサイクル推進マスコットキャラクター

福島県生活環境部
一般廃棄物課

目 次

第1編 本編	-----	1
1 福島県の一般廃棄物について	-----	2
(1) 平成18度一般廃棄物処理事業の概要	-----	2
(2) 福島県廃棄物処理計画	-----	4
2 福島県のごみ処理の状況	-----	7
(1) ゴミの排出量について	-----	7
(2) ゴミの分別収集状況について	-----	12
(3) ゴミの処理状況について	-----	12
(4) リサイクルについて	-----	14
(5) 最終処分について	-----	16
3 福島県のし尿処理の状況	-----	19
(1) 水洗化の状況について	-----	19
(2) し尿及び浄化槽汚泥の処理方法について	-----	19
(3) 浄化槽の状況	-----	22
第2編 統計データ編	-----	25
1 平成18年度廃棄物処理事業経費	-----	26
2 平成18年度廃棄物処理事業委託・許可件数	-----	34
3 平成18年度廃棄物処理業者及び従業員の状況	-----	35
4 平成18年度ごみ処理の概要	-----	36
5 平成18年度ごみ搬入量の内訳	-----	40
6 平成18年度ごみ処理量の内訳	-----	44
7 平成18年度資源化量の内訳	-----	47
8 平成18年度ごみ処理手数料の状況（生活系）	-----	51
9 平成18年度ごみ処理手数料の状況（事業系）	-----	57
10 平成18年度ごみの収集運搬体制の状況（生活系）	-----	63
11 平成18年度ごみの収集運搬体制の状況（事業系）	-----	67
12 市町村におけるごみ減量化推進体制整備状況	-----	71
13 市町村における生ごみ処理機（コンポスト容器も含む）普及促進策	-----	72
14 住民団体等による集団回収への援助措置実施状況	-----	76
15 平成18年度一般廃棄物処理施設整備事業一覧（国費による助成事業）	-----	77
16 平成18年度水洗化人口等の状況	-----	78
17 平成18年度し尿処理の状況	-----	80
第3編 資料編	-----	83
1 一般廃棄物処理施設の状況	-----	84
2 環境美化条例等制定状況	-----	100
3 市町村廃棄物関係担当課一覧	-----	102
4 一部事務組合一覧	-----	103

(注)本冊子の内容は福島県の一般廃棄物課のホームページ（産業廃棄物課・不法投棄対策室と共同）より閲覧・ダウンロードできます。（URL: <http://www.pref.fukushima.jp/recycle/> ）

第1編 本編

1 福島県の一般廃棄物処理について

(1) 平成18年度一般廃棄物処理事業の概要

ア 計画処理区域

平成18年10月1日現在の福島県の人口は2,096,295人で、ごみ処理及びし尿処理ともに県全域(13,782.75km²)が処理区域となっています。

県内の市町村数は平成19年3月31日現在、13市32町15村の合計60団体、一部事務組合は14団体であり、一般廃棄物処理事業は、市町村及び一部事務組合により行われています。(平成20年7月1日現在、13市31町15村)

イ 一般廃棄物処理事業経費

平成18年度の市町村における一般廃棄物処理事業費は約254億円で、前年度(約247億円)と比較すると約3%増加しています。

表-1 平成18年度一般廃棄物処理事業費 (単位:千円)

廃棄物処理事業経費	ごみ処理経費 21,270,693			し尿処理経費 4,173,841		
	建設改良費	処理及び維持管理費	その他	建設改良費	処理及び維持管理費	その他
25,444,534 (24,702,646)	3,266,266 (2,452,415)	17,333,513 (17,185,241)	670,914 (569,331)	201,579 (234,866)	3,855,077 (4,137,117)	117,185 (123,676)

(注)建設改良費:施設の建設や改良に係る工事費、調査費

処理及び維持管理費:通常の処理に係る人件費、処理費、修繕費、車両等購入費

()の数値は平成17年度実績

ウ 一般廃棄物処理業者数等の状況

平成18年度末現在のごみ処理及びし尿処理を委託又は許可をしている業者数及び従業員数は表-2のとおりです。

業者数で638、従業員数で5,427人となっており、前年度と比較すると、いわき市で中間処理業者の増加したために特に従業員数が増えています。

表-2 平成18年度一般廃棄物処理業者数等

県内に主たる事務所を有する事業者				従業員数(人)			
総数	ごみ専業	し尿専業	兼業	合計	収集運搬	中間処理	最終処分
638 (622)	516 (500)	100 (102)	22 (20)	5,427 (4,636)	4,354 (4,023)	1,078 (602)	11 (11)

(注1)()内は平成17年度実績

(注2)従業員数は、業務の兼務により内訳と合計数が一致しません。

エ 一般廃棄物処理施設設置状況

平成18年度末における稼働中の一般廃棄物処理施設は118施設で、ごみ処

理施設が69施設、し尿処理施設が26施設、一般廃棄物最終処分場が23施設となっており、それぞれの施設整備に当たっては、主に循環型社会形成推進交付金（平成16年度以前は廃棄物処理施設整備費国庫補助金）が活用されています。

表一3 一般廃棄物処理施設設置状況 (平成18年度末現在)

施設種類	施設数	施設能力
ごみ処理施設	ごみ焼却施設	24
	粗大ごみ処理施設	14
	資源化施設	28
	その他の施設	3
	小計	69
し尿処理施設	し尿処理施設	24
	コミュニティプラント	2
	小計	26
一般廃棄物最終処分場	23	残余容量 1,659,529m ³ 残余年数 13.1年
合計	118	

(注)残余年数は、残余容量を平成18年度の埋立容量実績(覆土を含む)で除したもの。

才 一般廃棄物処理手数料の徴収状況

生活系ごみは、資源ごみを除き4割以上の市町村において、また、事業系ごみは8割以上の市町村で有料化が図られています。

また、し尿及び浄化槽汚泥の処理については、すべての市町村で有料化されています。

表一4 平成18年度ごみ処理有料化の状況(直接搬入は除く)(単位:市町村数)

種類	生活系ごみ (割合%)	事業系ごみ (割合%)
可燃ごみ	27 (45.0%)	50 (83.3%)
不燃ごみ	26 (43.3%)	48 (80.0%)
資源ごみ	紙	8 (13.3%)
	金属	14 (23.3%)
	ガラス	14 (23.3%)
	ペットボトル	14 (23.3%)
		22 (36.7%)

プラスチック	15 (25.0%)	23 (38.3%)
布類	0 (0%)	5 (8.3%)
生ごみ	0 (0%)	1 (1.7%)
その他	4 (6.7%)	1 (1.7%)
その他収集ごみ	1 (1.7%)	4 (6.7%)
粗大ごみ	27 (45.0%)	34 (56.7%)

(注1)割合の分母は平成18年度末現在の市町村数で60です。

(注2)資源ごみの「その他」は、再資源化を目的として収集されるもののうち、他の品目に分類できないものを指し、具体的には白色トレイや廃食油などがあります。

(注3)「その他収集ごみ」は他の種類に分類できないごみであり、「有害ごみ」や「危険ごみ」などがあります。

表－5 平成18年度し尿及び浄化槽汚泥の処理手数料の状況(単位:市町村数)

種類	有料		無料
	従量・回数制	定額制	
し尿	53(88.3%)	7(11.7%)	0
浄化槽汚泥	55(91.7%)	5(8.3%)	0

(注)割合の分母は平成18年度末現在の市町村数で60です。(全市町村でし尿及び浄化槽汚泥の汲み取りが実施されています。)

(2) 福島県廃棄物処理計画

「福島県廃棄物処理計画」については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、平成14年度から平成22年度の9カ年を計画期間とする計画として平成14年3月に策定しましたが、社会経済環境等の変化等に対応するため、中間年度である平成17年度（平成18年3月）に循環型社会づくりに向けた取組みを一層強化するという基本的な考えのもとに見直しを行いました。

ア 廃棄物処理に関する課題

- ①大量消費・大量廃棄型社会から、環境への負荷ができる限り低減された循環型社会へ転換するためには、ライフスタイルを変えていくことが必要です。
- ②ごみの排出抑制を推進するため、ごみ処理有料化の導入等について積極的に推進することが必要です。
- ③リサイクルを推進するためには、廃棄物処理法及び各種リサイクル法等の施策の円滑な実施と、各実施主体による一体的な推進体制を構築することが必要です。
- ④災害時等一度に大量の廃棄物が発生する場合には、近隣の市町村等が連携を密にしながら処理していく必要があることから、その計画や処理体制づくりが必要です。

要です。

イ 基本方針

ごみ処理に関する課題を踏まえ、次の3つの柱をごみ減量化・リサイクルの目標の基本方針とし、県民、事業者、市町村及び県はそれぞれの役割分担のもとで目標実現のために取り組んでいくこととします。

- ①ごみ発生の抑制（ごみとなる前の取組み）
- ②リサイクルの推進（ごみ資源化の取組み）
- ③資源化施設の整備（ごみとして収集した後の取組み）

ウ ごみ減量化・リサイクルの目標値（平成22年度における目標値）

県民に分かりやすい目標指標として次のように目標値を設定しました。

- | | |
|-----------------|----------|
| ①1人1日当たりのごみの排出量 | 930g／人・日 |
| ②リサイクル率 | 26% |
| ③1日当たりの最終処分量 | 225t／日 |

エ 目標達成のための推進施策

目標を達成するため、次の施策の推進を図ることとします。

①ごみ発生抑制（ごみとなる前の取組み）

- 意識改革の推進
- 過剰包装防止対策の実施
- 不用品交換事業の推進
- 自家処理の推進
- 事業系ごみの減量化対策
- ごみ処理有料化の推進

②リサイクルの推進（ごみ資源化の取組み）

- 各種リサイクル法への対応
- 集団回収の促進
- リサイクル製品の製造促進
- リサイクル製品等の使用促進

③資源化施設等の整備（ごみとして収集した後の取組み）

- 資源化施設の整備
- 溶融スラグの再生利用
- たい肥化施設の整備
- 施設の整備手法の調査研究
- 再生事業者との連携

《ごみ排出量の考え方について》

国におけるごみ排出量の定義が平成17年度実績のとりまとめから次のとおり変更されたことから、本冊子においても新たな定義（新基準）でとりまとめることとします。

旧： 収集ごみ量 + 直接搬入量 + 自家処理量

新： 収集ごみ量 + 直接搬入量 + 集団回収量

また、過去の実績を表記する部分についても、新基準に換算した値により表記することとしました。

なお、福島県廃棄物処理計画における1人1日当たりのごみ排出量の平成22年度目標値930gは、旧基準によるものです。

2 福島県のごみ処理の状況

平成18年度のごみ処理の状況は次のとおりです。

1 ごみの排出量

(1) 排出量

837,965 (t／年) 【前年度 840,012 t／年】

前年度と比較すると 2,047 t 減少しています。

(2) 1人1日当たりの排出量

1,095 (g／人・日) 【前年度 1,091 g／人・日】

前年度と比較すると 4 g 増加しています。

2 リサイクル率

15.5 (%) 【前年度 15.1 %】

前年度と比較すると 0.4 ポイント伸びていますが、目標値と比較すると、10.5 ポイント足りない状況です。

3 最終処分場埋立量

(1) 総埋立量

118,611 (t／年) 【前年度 120,941 t／年】

前年度と比較すると 2,330 t 減少しています。

(2) 1日当たりの埋立量

325 (t／日) 【前年度 331 t】

前年度と比較すると 6 t 減少していますが、目標値と比較すると、1日当たり 100 t 多くなっています。

(1) ごみの排出量について

平成18年度におけるごみの総排出量は 837,965 t で、1人1日当たりに換算すると 1,095 g となります。

ごみ総排出量は減少傾向にあるものの、1人1日当たりの排出量は平成17年度からやや増加傾向にあり、全国平均の 1,116 g と比較して 21 g 少なくなっていますが、この差は過去において最も小さくなっています。

また、生活系・事業系の排出割合をみると、生活系が 586,516 t、事業系が 251,449 t となっており、前年度と同様、事業系が約 1 / 3 を占めています。

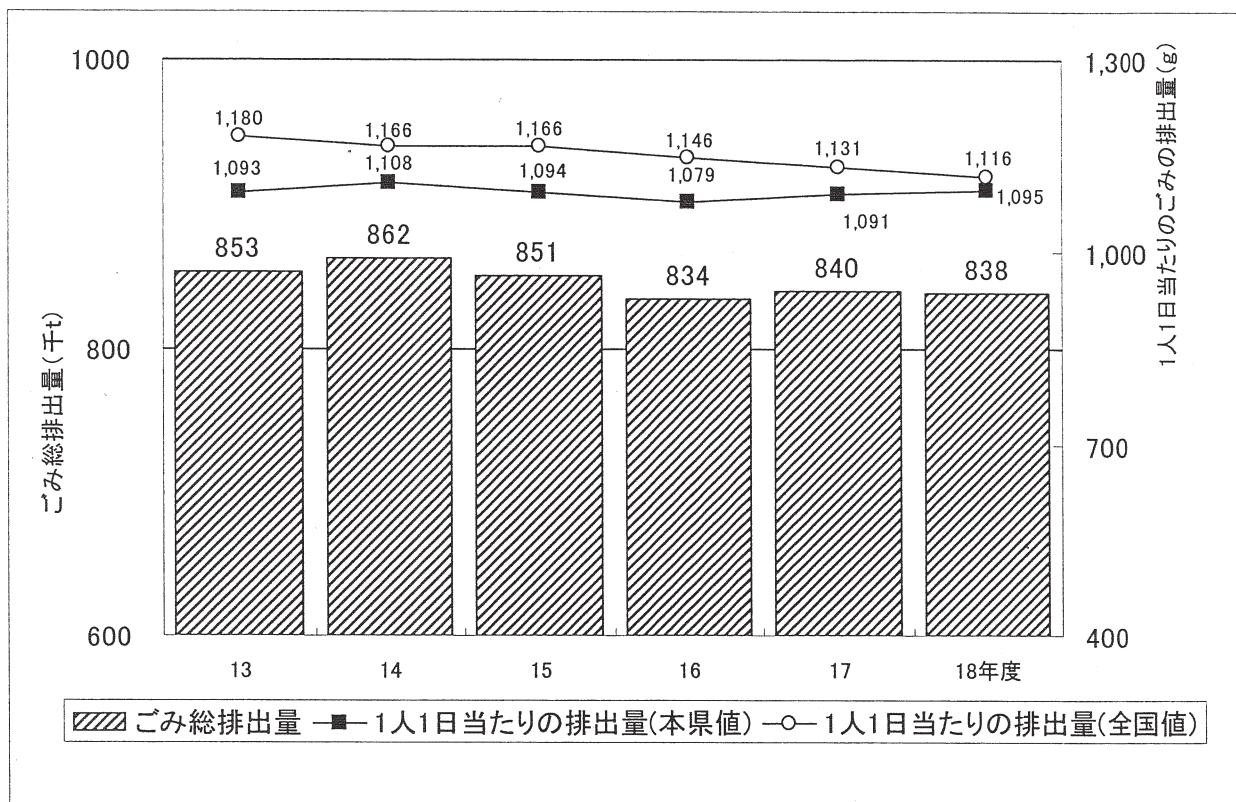


図-1 ごみの排出量の推移

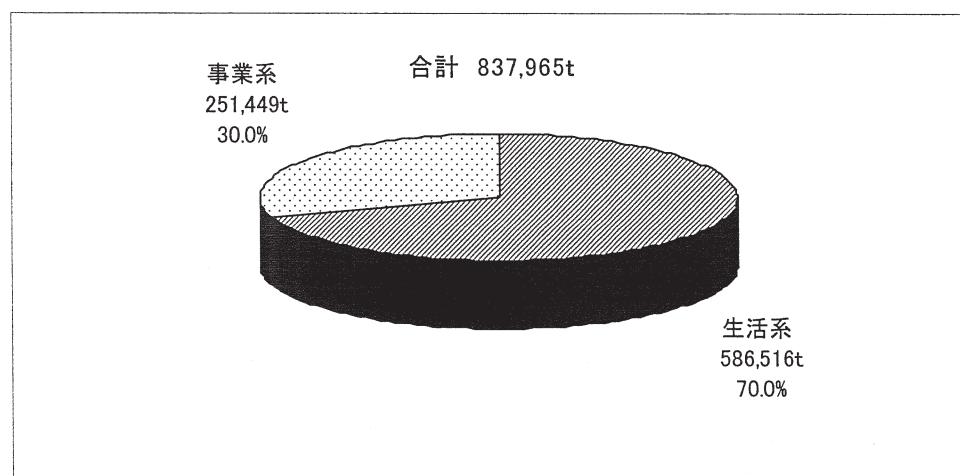


図-2 生活系ごみと事業系ごみの排出割合

○ 市町村別 1人1日当たりのごみ排出量の状況

人口が同規模の市町村ごとに比較した、1人1日当たりのごみ排出量の少ない市町村のランキングは表-6のとおりで、会津地域・南会津地域の排出量が多い傾向にありますが、これは観光客による影響もあると考えられます。

また、平成17年度と比較して、1人1日当たりのごみ排出量が減少した市町村のランキングは表-7のとおりです。

表-6 1人1日当たりのごみの排出量(単位: g)

(1) 人口5万人以上
(10市)

順位	市町村名	排出量
1	二本松市	832
2	須賀川市	954
3	南相馬市	999
4	伊達市	1,069
5	白河市	1,070
6	喜多方市	1,084
7	会津若松市	1,216
8	福島市	1,253
9	いわき市	1,276
10	郡山市	1,297
	平均	1,197

(2) 人口1万人～5万人未満
(21市町村)

順位	市町村名	排出量
1	田村市	615
2	小野町	726
3	浪江町	766
4	西郷村	788
5	塙町	798
6	三春町	806
7	矢吹町	821
8	会津坂下町	831
9	会津美里町	833
10	本宮市	836
11	石川町	837
12	大熊町	853
13	棚倉町	864
14	富岡町	902
15	川俣町	930
16	鏡石町	934
17	国見町	1,026
18	猪苗代町	1,080
19	南会津町	1,122
20	相馬市	1,142
21	桑折町	1,181
	平均	880

(5) 全市町村
(60市町村)

順位	市町村名	排出量
1	葛尾村	302
2	飯館村	323
3	鮫川村	377
4	中島村	403
5	川内村	420
6	平田村	512
7	新地町	543
8	泉崎村	546
9	矢祭町	558
10	昭和村	598
11	田村市	615
12	西会津町	674
13	柳津町	678
14	湯川村	680
15	古殿町	680
16	双葉町	684
17	大玉村	692
18	金山町	701
19	浅川町	720
20	小野町	726
21	楢葉町	741
22	広野町	758
23	浪江町	766
24	三島町	786
25	西郷村	788
26	玉川村	795
27	塙町	798
28	天栄村	805
29	三春町	806
30	矢吹町	821
31	会津坂下町	831
32	二本松市	832
33	会津美里町	833
34	本宮市	836
35	石川町	837
36	大熊町	853
37	棚倉町	864
38	磐梯町	900
39	富岡町	902
40	川俣町	930
41	飯野町	931
42	鏡石町	934
43	下郷町	951
44	須賀川市	954
45	南相馬市	999
46	只見町	1,025
47	国見町	1,026
48	伊達市	1,069
49	白河市	1,070
50	猪苗代町	1,080
51	喜多方市	1,084
52	南会津町	1,122
53	相馬市	1,142
54	桑折町	1,181
55	会津若松市	1,216
56	福島市	1,253
57	いわき市	1,276
58	北塩原村	1,280
59	郡山市	1,297
60	檜枝岐村	1,420
	平均	1,095

(3) 人口5千人～1万人未満
(18町村)

順位	市町村名	排出量
1	飯館村	323
2	中島村	403
3	平田村	512
4	新地町	543
5	泉崎村	546
6	矢祭町	558
7	西会津町	674
8	古殿町	680
9	双葉町	684
10	大玉村	692
11	浅川町	720
12	楢葉町	741
13	広野町	758
14	玉川村	795
15	天栄村	805
16	飯野町	931
17	下郷町	951
18	只見町	1,025
	平均	682

(4) 人口5千人未満
(11町村)

順位	市町村名	排出量
1	葛尾村	302
2	鮫川村	377
3	川内村	420
4	昭和村	598
5	柳津町	678
6	湯川村	680
7	金山町	701
8	三島町	786
9	磐梯町	900
10	北塩原村	1,280
11	檜枝岐村	1,420
	平均	702

表-7 1人1日当たりのごみ排出量の対前年度比(単位:g)

順位	市町村名	対前年度比	H18年度	H17年度	順位	市町村名	対前年度比	H18年度	H17年度
1	古殿町	-140	680	820	31	飯館村	9	323	314
2	楓葉町	-103	741	844	32	新地町	10	543	533
3	小野町	-71	726	797	33	檜枝岐村	10	1,420	1,410
4	下郷町	-52	951	1,003	34	鮫川村	15	377	361
5	磐梯町	-44	900	944	35	矢吹町	15	821	806
6	西会津町	-27	674	701	36	二本松市	16	832	816
7	桑折町	-25	1,181	1,205	37	柳津町	17	678	661
8	郡山市	-19	1,297	1,316	38	浪江町	19	766	747
9	本宮市	-19	836	855	39	川俣町	19	930	911
10	白河市	-19	1,070	1,089	40	川内村	20	420	400
11	浅川町	-19	720	739	41	伊達市	20	1,069	1,049
12	矢祭町	-16	558	574	42	塙町	21	798	778
13	北塩原村	-14	1,280	1,295	43	葛尾村	21	302	280
14	会津坂下町	-13	831	844	44	猪苗代町	22	1,080	1,058
15	双葉町	-12	684	695	45	南会津町	22	1,122	1,100
16	平田村	-10	512	522	46	田村市	24	615	591
17	中島村	-9	403	412	47	大玉村	25	692	667
18	棚倉町	-6	864	871	48	鏡石町	28	934	906
19	いわき市	-5	1,276	1,281	49	南相馬市	29	999	971
20	湯川村	-3	680	682	50	会津美里町	30	833	803
21	天栄村	-2	805	808	51	三春町	39	806	767
22	西郷村	-0	788	788	52	三島町	41	786	744
23	相馬市	2	1,142	1,140	53	昭和村	47	598	551
24	金山町	2	701	699	54	飯野町	48	931	883
25	泉崎村	5	546	540	55	広野町	57	758	701
26	福島市	6	1,253	1,248	56	只見町	57	1,025	968
27	富岡町	6	902	896	57	国見町	62	1,026	964
28	会津若松市	7	1,216	1,210	58	大熊町	70	853	783
29	石川町	8	837	829	59	喜多方市	82	1,084	1,001
30	須賀川市	8	954	946	60	玉川村	88	795	707

(注1)対前年度の数値が同じ場合の順位付けは端数により行っています。また、一〇の表記も端数処理によるものです。

(注2)合併した市町村における過去の数値については、旧市町村分を合算して集計しています。

○ 有料化の実施状況によるごみ排出量の違い

本県では、生活系可燃ごみの有料化は27市町村で実施されていますが、ごみ処理有料化の実施とごみの排出量の関係について次の方法により分析をしました。

〈分析方法〉

- ① ごみ排出量の多少については、有料化の実施の有無のほか、地域特性が考えられることから、1人1日当たりの排出量の上位3市町村と下位3市町村を除く54市町村を分析の対象としました。
- ② 対象市町村を生活系可燃ごみを有料化しているか否かに分けて1人1日当たりのごみ排出量を比較するとともに、人口区分（1万人～5万人未満及び5千人～1万人未満）ごとにも比較しました。

その結果は表-8のとおりであり、生活系可燃ごみの有料化を実施している市町村は未実施の市町村に比べ、1人1日当たりのごみ排出量が327g少なくなっています。

また、人口区分ごとに比較した場合、1万人～5万人の区分における排出量の方が、5千人～1万人の区分における排出量よりも大きな差が見られます。

なお、対象としなかった市町村について、上位3市町村はいずれも有料化を実施しており、下位3市町村については1市町村が有料化実施をしています。（有料化の実施市町村については第2編統計データ編 8 平成18年度ごみ処理手数料の状況（生活系）参照。）

表-8 有料化の実施状況による1人1日当たりのごみ排出量

（単位:g）

	有料化実施	有料化未実施	差
排出量	800 (23)	1,127 (31)	-327
人口10,000～50,000人の市町村の排出量	773 (11)	988 (10)	-215
人口5,000～10,000人の市町村の排出量	645 (10)	780 (7)	-135

※()内は市町村数

(2) ごみの分別収集状況について

各市町村においては、平成9年度からの容器包装リサイクル法が本格施行されたことなどにより分別収集が進んできています。

平成18年度の状況は表-9のとおりであり、21区分から11区分まで分別収集が行われています。

表-9 分別収集の状況

分別数	市町村名	市町村数
21	双葉町	1
20	三春町	1
18	二本松市、本宮市、大玉村	3
17	石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、北塩原村、檜枝岐村、富岡町、大熊町	9
16	喜多方市、磐梯町、会津美里町、飯館村	4
15	国見町、田村市、鏡石町、小野町、西会津町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、昭和村、楢葉町、川内村、新地町	13
14	伊達市、須賀川市、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、会津若松市、三島町、下郷町、南会津町、南相馬市、広野町、葛尾村	13
13	川俣町、飯野町、只見町、浪江町、いわき市	5
12	福島市、郡山市、天栄村、白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、	8
11	相馬市、桑折町、金山町	3

(注1)分別数とはごみを出す住民に対し市町村が求める分別の数。よって、例えばアルミ缶とスチール缶を同じ袋で一括して出させている場合には、その後にごみ処理施設で分別している場合でも、分別数は1と数えています。

(注2)合併した市町で地域により分別数が異なる場合は、最も人口が多い地域の分別数を採用して集計しました。

(3) ごみの処理状況について

平成18年度のごみ処理フローは図-3のとおりです。

一般廃棄物処理施設で処理されたごみの総量は796,105tで、このうち、直接焼却処理された量は663,827t(83.4%)、粗大ごみ処理施設等での処理量は79,576t(10.0%)、直接最終処分された量は13,302t(1.7%)となっています。

最終処分された量は118,611tで、このうち、焼却等の中間処理後に最終処分された量が105,309(88.8%)、直接最終処分された量が13,302(11.2%)となっています。

総資源化量は130,685tで、このうち、収集後に直接資源化された量が39,400t(30.2%)、焼却施設や粗大ごみ処理施設等の廃棄物処理施設を経て資源化された量が46,840t(35.8%)、集団回収量が44,445t(34.0%)となっています。また、前年度と比較して約4千t増加していますが、収集後の直接資源化量が増加したことことが要因となっています。

処理人口等（単位：千人）

総 人 口	計 画 処 理 区 内 人 口	計 画 收 集 人 口	搬入量合計	
			可燃ごみ	不燃ごみ
2,096 (2,110)	2,096 (2,110)	2,096 (2,109)	602,703 (616,125)	31,470 (30,489)
			資源ごみ	
			76,981 (75,762)	
			その他	
			1,554 (1,541)	
			粗大ごみ	
			6,870 (5,070)	
			直接搬入ごみ	
			73,942 (66,542)	
			搬入量合計	
			793,520 (795,529)	
			集団回収量	
			44,445 (44,483)	
			自家処理処人口	
		0 (1)	自家処理量	
			0 (187)	

処理系統図（単位：t／年）

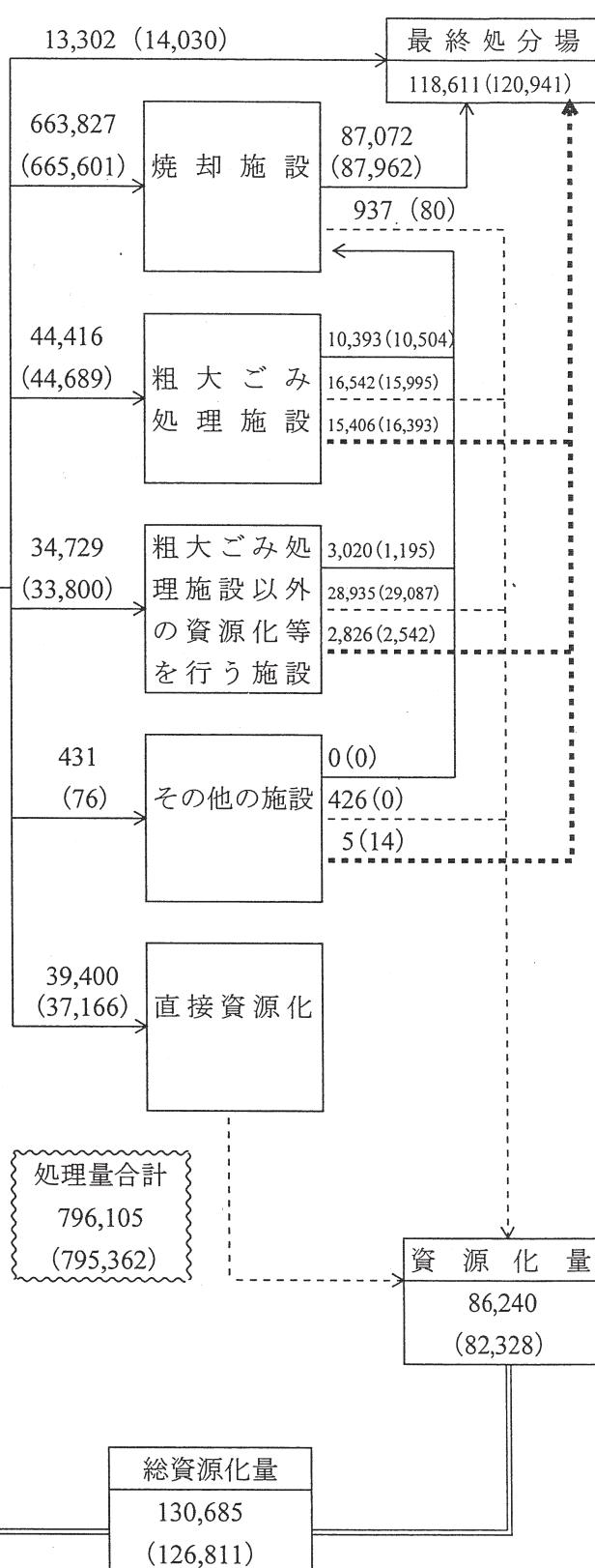


図-3 ごみ処理のフロー図

(注) () 内は平成 17 年度の実績

前年度搬入分を処理するなどの理由により、搬入量と処理量は一致しません。

(4) リサイクルについて

リサイクル率及び資源化率とも年々上昇しており、前年度と比較すると、リサイクル率は0.5ポイント、資源化率は0.4ポイント上回っています。

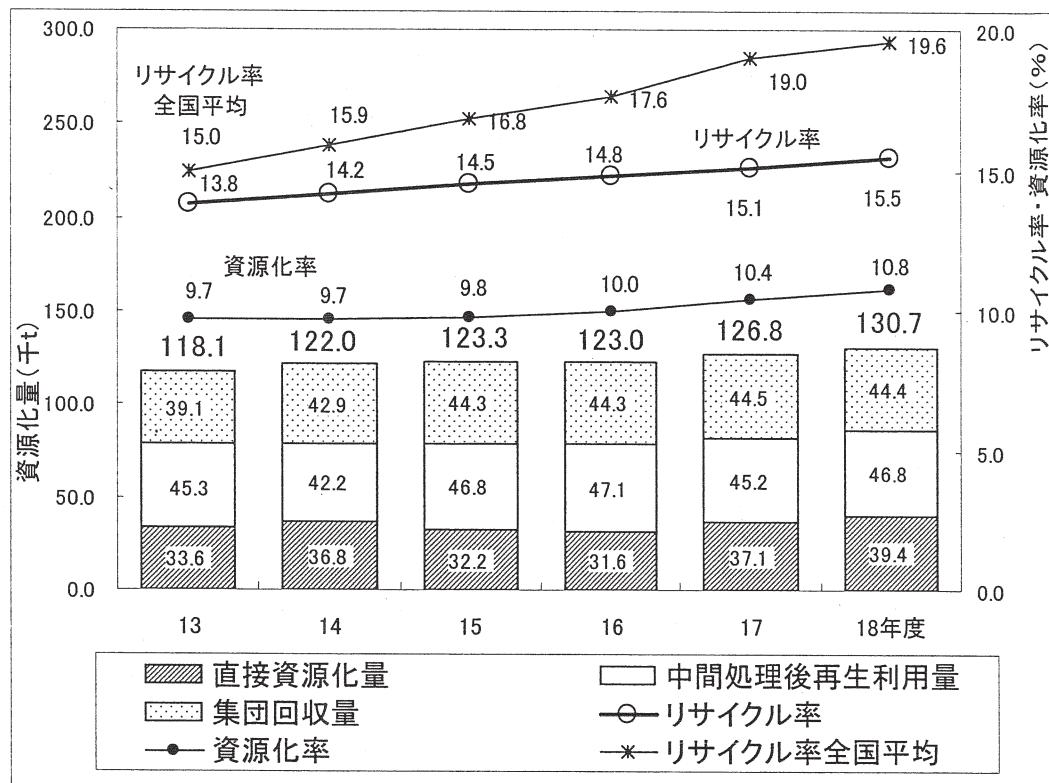


図-4 総資源化量とリサイクル率の推移

$$\text{資源化量} = (\text{直接資源化量}) + (\text{中間処理後再生利用量})$$

$$\text{総資源化量} = (\text{直接資源化量}) + (\text{中間処理後再生利用量}) + (\text{集団回収量})$$

$$\text{リサイクル率} = \frac{(\text{総資源化量})}{(\text{ごみ処理量}) + (\text{集団回収量})} \times 100$$

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源化量})}{(\text{ごみ処理量})} \times 100$$

○ 市町村別リサイクル率の状況

人口が同規模の市町村ごとに比較した、リサイクル率の高い市町村のランキングは表-10のとおりです。

リサイクル率と資源化率（集団回収量を含まないもの）の関係について見ると、飯舘村（リサイクル率48.3%、資源化率48.3%）、三春町（リサイクル率33.1%、資源化率31.0%）は、収集ごみから資源が回収される量が多いためにリサイクル率が高くなっています。

一方、金山町（リサイクル率26.2%、資源化率10.9%）、湯川村（リサイクル率23.9%、資源化率14.9%）、いわき市（リサイクル率15.2%、資源化率5.8%）では、

資源化率が低いものの、集団回収量が多いいためリサイクル率を押し上げています。(資源化量については第2編統計データ編 4 平成18年度ごみ処理の概要参照。)

表-10 リサイクル率(単位: %)
(1) 人口5万人以上
(10市)

順位	市町村名	リサイクル率
1	二本松市	26.1
2	南相馬市	18.9
3	会津若松市	18.6
4	福島市	15.9
5	いわき市	15.2
6	伊達市	14.5
7	須賀川市	14.3
8	喜多方市	14.1
9	白河市	13.6
10	郡山市	12.4
	平均	15.3

(2) 人口1万人~5万人未満
(21市町村)

順位	市町村名	リサイクル率
1	三春町	33.1
2	田村市	23.6
3	本宮市	21.3
4	猪苗代町	20.1
5	小野町	19.8
6	会津坂下町	18.6
7	国見町	17.8
8	桑折町	17.5
9	会津美里町	17.4
10	西郷村	17.0
11	鏡石町	15.8
12	相馬市	14.1
13	矢吹町	12.6
14	塙町	12.6
15	石川町	12.3
16	大熊町	12.3
17	南会津町	12.2
18	富岡町	12.2
19	棚倉町	12.0
20	浪江町	10.3
21	川俣町	9.5
	平均	16.5

(5) 全市町村
(60市町村)

順位	市町村名	リサイクル率
1	飯館村	48.3
2	三春町	33.1
3	金山町	26.2
4	二本松市	26.1
5	湯川村	23.9
6	大玉村	23.7
7	田村市	23.6
8	檜枝岐村	22.9
9	飯野町	22.5
10	本宮市	21.3
11	新地町	20.8
12	猪苗代町	20.1
13	楳葉町	19.9
14	小野町	19.8
15	西会津町	19.5
16	南相馬市	18.9
17	昭和村	18.8
18	矢祭町	18.7
19	会津坂下町	18.6
20	会津若松市	18.6
21	柳津町	18.4
22	三島町	18.2
23	鮫川村	18.1
24	国見町	17.8
25	桑折町	17.5
26	会津美里町	17.4
27	葛尾村	17.2
28	西郷村	17.0
29	浅川町	16.4
30	双葉町	16.0
31	福島市	15.9
32	鏡石町	15.8
33	川内村	15.4
34	泉崎村	15.4
35	いわき市	15.2
36	平田村	15.1
37	中島村	15.0
38	下郷町	14.8
39	天栄村	14.6
40	広野町	14.5
41	伊達市	14.5
42	須賀川市	14.3
43	喜多方市	14.1
44	相馬市	14.1
45	白河市	13.6
46	矢吹町	12.6
47	塙町	12.6
48	只見町	12.5
49	郡山市	12.4
50	石川町	12.3
51	大熊町	12.3
52	南会津町	12.2
53	富岡町	12.2
54	古殿町	12.1
55	棚倉町	12.0
56	浪江町	10.3
57	玉川村	9.7
58	川俣町	9.5
59	北塩原村	8.8
60	磐梯町	6.3
	平均	15.5

(3) 人口5千人~1万人未満
(18町村)

順位	市町村名	リサイクル率
1	飯館村	48.3
2	大玉村	23.7
3	飯野町	22.5
4	新地町	20.8
5	楳葉町	19.9
6	西会津町	19.5
7	矢祭町	18.7
8	浅川町	16.4
9	双葉町	16.0
10	泉崎村	15.4
11	平田村	15.1
12	中島村	15.0
13	下郷町	14.8
14	天栄村	14.6
15	広野町	14.5
16	只見町	12.5
17	古殿町	12.1
18	玉川村	9.7
	平均	17.4

(4) 人口5千人未満
(11町村)

順位	市町村名	リサイクル率
1	金山町	26.2
2	湯川村	23.9
3	楳枝岐村	22.9
4	昭和村	18.8
5	柳津町	18.4
6	三島町	18.2
7	鮫川村	18.1
8	葛尾村	17.2
9	川内村	15.4
10	北塩原村	8.8
11	磐梯町	6.3
	平均	15.9

(5) 最終処分について

平成18年度の最終処分量は118.6千tと年々減少しており、平成13年度の131.5千tと比較すると約10%減少しています。

また、直接最終処分量も13.3千tと着実に減少しており、平成13年度の28.4千tと比較すると半分以下に減少しています。

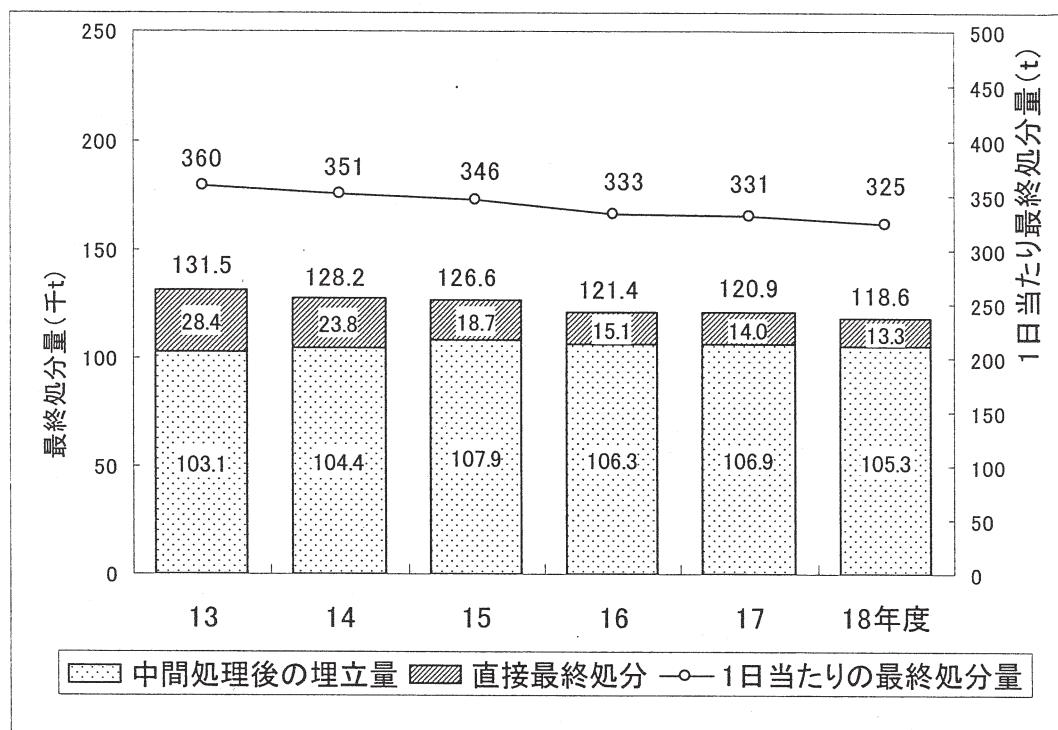


図-5 最終処分量と1日当たりの最終処分量の推移

表-11 ごみ処理の推移

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
a 総人口(人)	2,138,716	2,133,327	2,125,829	2,118,626	2,109,814	2,096,295
b 計画処理区域内人口(人)	2,138,716	2,133,327	2,125,829	2,118,626	2,109,814	2,096,295
c 計画収集人口(人)	2,127,457	2,122,968	2,115,170	2,116,500	2,109,339	2,096,295
d 自家処理人口(人)	11,259	10,359	10,659	2,126	475	0
e ごみ処理事業経費(千円)	33,702,033	34,598,719	20,464,769	19,061,163	20,206,987	21,270,693
f 建設改良費(千円)	15,269,021	15,616,838	2,663,644	1,595,520	2,452,415	3,266,266
g 処理及び施設維持管理経費(千円)	17,848,870	18,748,651	17,529,434	17,374,241	17,185,241	17,333,513
h その他(千円)	584,142	233,230	271,691	91,402	569,331	670,914
i 1人当たりの処理事業経費(円)	15,758	16,218	9,627	8,997	9,578	10,147
j 1人当たりの処理及び施設維持管理経費(円)	8,346	8,788	8,246	8,201	8,145	8,269
k 1t当たりの処理及び施設維持管理経費(円)	21,924	22,912	21,704	22,026	21,607	21,773
l ごみ総排出量(t／年)	853,227	862,414	850,876	834,152	840,012	837,965
m 1人当たりのごみ排出量(g／人・日)	1,093	1,108	1,094	1,079	1,091	1,095
n 計画収集量(t／年)	814,120	819,459	806,441	789,868	795,529	793,520
o 収集ごみ量(t／年)	766,823	761,776	738,129	722,271	728,987	719,578
p 直接搬入量(t／年)	47,297	57,683	68,312	67,597	66,542	73,942
q 生活系ごみ搬入量(t／年)	548,142	548,809	546,766	531,985	538,923	542,071
r 事業系ごみ搬入量(t／年)	265,978	270,650	259,675	257,883	256,606	251,449
s 自家処理量(t／年)	9,424	3,621	2,839	1,787	187	0
t ごみ処理量(t／年)	814,120	818,280	807,674	788,807	795,362	796,105
u 直接焼却量(t／年)	678,007	679,977	677,759	663,885	665,601	663,827
v 直接埋立量(t／年)	28,485	23,821	18,700	15,133	14,030	13,302
w 資源化等の中間処理量(t／年)	73,998	77,629	79,038	78,164	78,565	79,576
x 直接資源化量(t／年)	33,630	36,853	32,177	31,625	37,166	39,400
y 資源化量(t／年)	79,007	79,108	78,994	78,697	82,328	86,240
z 集団回収量(t／年)	39,107	42,955	44,435	44,284	44,483	44,445
aa 資源化率(%)	9.7	9.7	9.8	10.0	10.4	10.8
ab リサイクル率(%)	13.8	14.2	14.5	14.8	15.1	15.5
ac 1日当たりの最終処分量(t／日)	360	351	346	333	331	325
全国	1人当たりのごみ排出量(g／人・日)	1,180	1,166	1,166	1,146	1,131
	資源化率(%)	10.4	11.3	12.3	12.8	14.1
	リサイクル率(%)	15.0	15.9	16.8	17.6	19.0

(注) i=(e/b) × 1,000

j=(g/b) × 1,000

k=(g/t) × 1,000

l=n+z

m=(l/b/365) × 1,000,000 ※平成15年度は「365」を「366」として計算した。

n=q+r

aa=(y/t) × 100

ab=(y+z)/(t+z) × 100

(参考)

① 1人1日当たりのごみの排出量 BEST 3

[県全体] (60市町村)

- 1位 葛尾村 302 g／人・日
2位 飯舘村 323 g／人・日
3位 鮫川村 377 g／人・日

[全国BEST3]

- 1位 奈良県野迫川村 139 g／人・日
2位 徳島県佐那河内村 298 g／人・日
3位 福島県葛尾村 302 g／人・日

[人口5万人以上] (10市)

- 1位 二本松市 832 g／人・日
2位 須賀川市 954 g／人・日
3位 南相馬市 999 g／人・日

[人口1万人～5万人未満] (21市町村)

- 1位 田村市 615 g／人・日
2位 小野町 726 g／人・日
3位 浪江町 766 g／人・日

[人口5千人～1万人未満] (18町村)

- 1位 飯舘村 323 g／人・日
2位 中島村 403 g／人・日
3位 平田村 512 g／人・日

[人口5千人未満] (11町村)

- 1位 葛尾村 302 g／人・日
2位 鮫川村 377 g／人・日
3位 川内村 420 g／人・日

② リサイクル率 BEST 3

[県全体] (60市町村)

- 1位 飯舘村 48.3 %
2位 三春町 33.1 %
3位 金山町 26.2 %

[全国BEST3]

- 1位 鹿児島県大崎町 80.0 %
2位 長野県筑北村 76.6 %
3位 徳島県上勝町 75.5 %

[人口5万人以上] (10市)

- 1位 二本松市 26.1 %
2位 南相馬市 18.9 %
3位 会津若松市 18.6 %

[人口1万人～5万人未満] (21市町村)

- 1位 三春町 33.1 %
2位 田村市 23.6 %
3位 本宮市 21.3 %

[人口5千人～1万人未満] (18町村)

- 1位 飯舘村 48.3 %
2位 大玉村 23.7 %
3位 飯野町 22.5 %

[人口5千人未満] (11町村)

- 1位 金山町 26.2 %
2位 湯川村 23.9 %
3位 檜枝岐村 22.9 %

3 福島県のし尿処理の状況

(1) 水洗化の状況について

平成18年度の水洗化率は83.8%と年々増加しており、下水道による水洗化率は36.7%、浄化槽及びコミュニティープラント(コミプラ)による水洗化率は47.1%(うち合併処理浄化槽による水洗化率は21.1%)となっています。

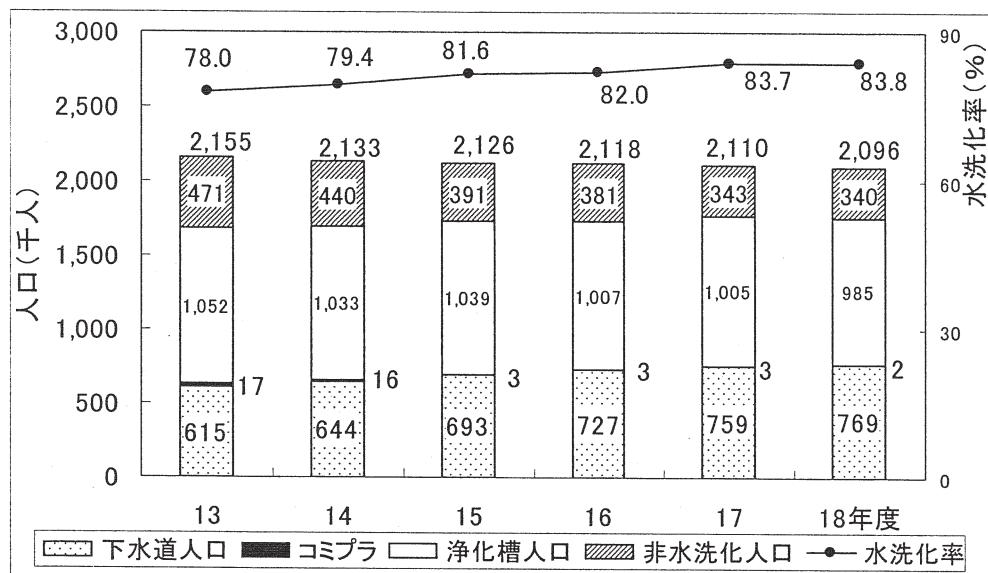


図-6 水洗化人口等の推移

(2) し尿及び浄化槽汚泥の処理方法について

平成18年度のし尿及び浄化槽汚泥の排出量は657,052 kℓと減少傾向にあり、平成13年度の762,493 kℓと比較すると、13.8%減少しています。

また、処理方式別に見ると、し尿処理施設における処理量は616,236 t(93.8%)、下水道投入が40,027 kℓ(6.1%)、自家処理量が789 kℓ(0.1%)となっています。

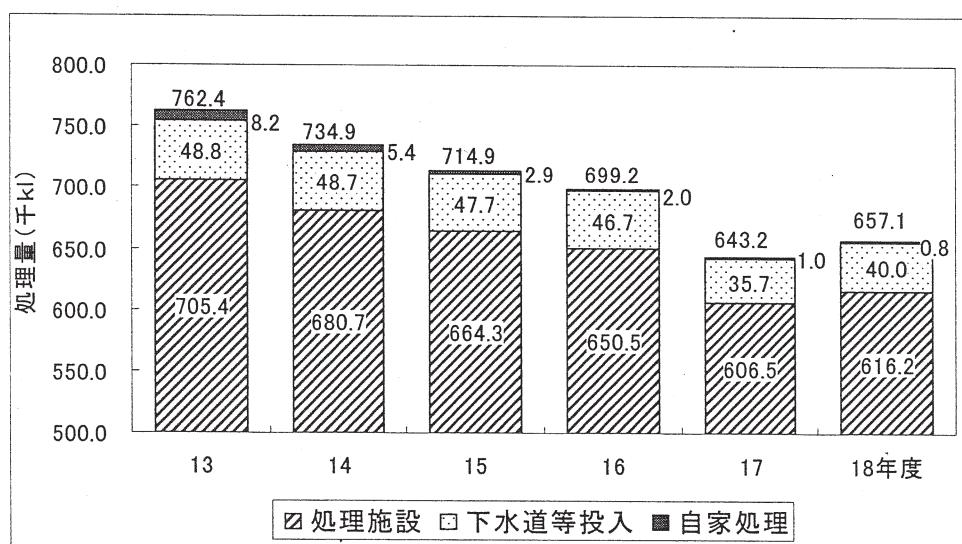


図-7 し尿及び浄化槽汚泥の処理状況

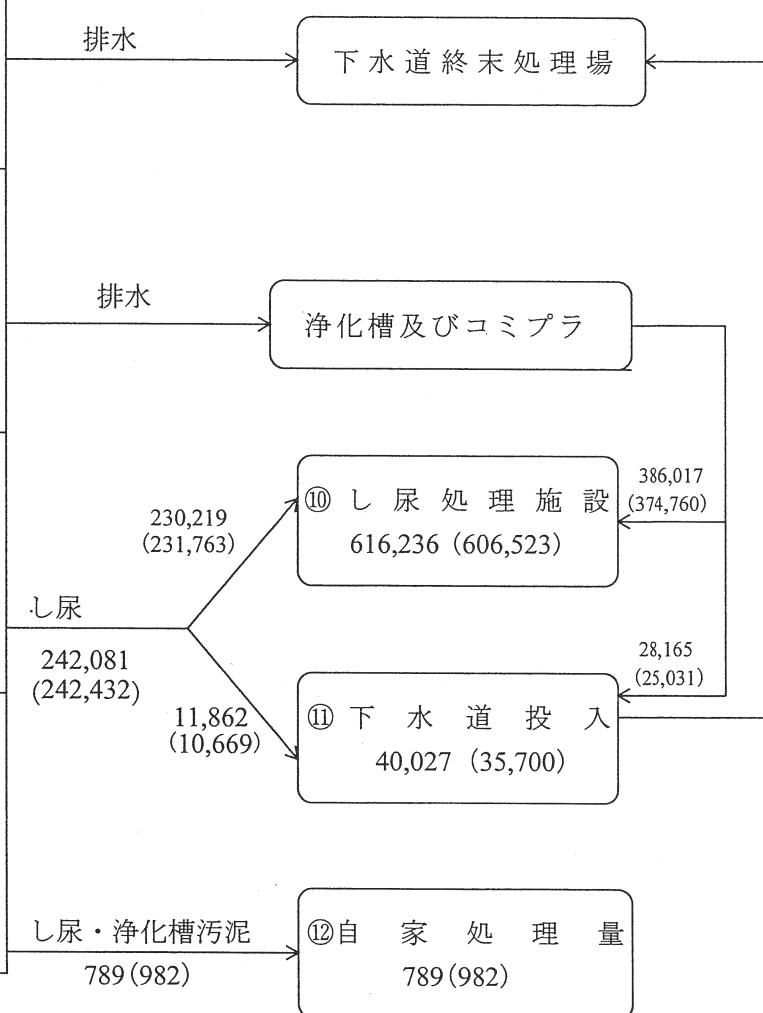
処理人口等（単位：千人）

① 総 人 口	② 計 画 處 理 区 域 内 人 口	④ 水 洗 化 人 口	⑧ 公共 下水道 769 (759)
			⑨ 浄化槽及び コミプラ 987 (1,008)
2,096 (2,110)	2,096 (2,110)	⑤ 非 水 洗 化 口 340 (343)	⑥ 計画 収集 人口 338 (341)
			⑦ 自家 処理 人口 2 (2)

③計画処理区域外人口

0 (0)

処理系統図（単位：k ℓ／年）



(注) () 内は平成 17 年度の実績

図-8 し尿処理のフロー図

(人口ベース)

計画区域率 ②/①=100.0% (100.0%)
 水洗化率 ④/①= 83.8% (83.7%)
 非水洗化率 ⑤/①= 16.2% (16.3%)
 計画収集率 ⑥/①= 16.1% (16.1%)
 自家処理率 ⑦/①= 0.0% (0.1%)
 公共下水道水洗化率 ⑧/①= 36.7% (36.0%)
 浄化槽及びコミプラ水洗化率 ⑨/①= 47.1% (47.8%)
 計画収集率 ⑥/⑤= 99.5% (99.3%)
 自家処理率 ⑦/⑤= 0.5% (0.7%)

表-12 し尿処理の推移

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
a 総人口(人)	2,138,716	2,133,327	2,125,829	2,118,626	2,109,814	2,096,295
b 計画処理区域内人口(人)	2,138,716	2,133,327	2,125,829	2,118,626	2,109,814	2,096,295
c 水洗化率(%)	78.0	79.4	81.6	82.0	83.7	83.8
d 水洗化人口(人)	1,667,245	1,692,894	1,734,914	1,737,423	1,766,762	1,756,592
e 公共下水道人口(人)	615,135	644,410	692,543	727,235	758,954	768,879
f コミュニティプラント人口(人)	17,258	15,712	3,212	3,080	2,920	2,543
g 净化槽人口(人)	1,034,852	1,032,772	1,039,159	1,007,108	1,004,888	985,170
h 合併処理浄化槽人口(人)	347,562	389,963	393,590	406,076	439,276	443,236
i 非水洗化率(%)	22.0	20.6	18.4	18.0	16.3	16.2
j 非水洗化人口(人)	471,471	440,433	390,915	381,203	343,052	339,703
k 計画収集人口(人)	460,170	433,091	385,737	376,948	340,695	337,953
l 自家処理人口(人)	11,301	7,342	5,178	4,255	2,357	1,750
m 計画処理区域内のし尿排出量(kl/年)	762,493	734,980	714,970	697,161	643,205	657,052
n し尿処理量(kl/年)	762,493	734,980	714,970	699,214	643,205	657,052
o 計画処理量(t/年)	754,262	729,507	712,078	697,221	642,223	656,263
p し尿処理施設(kl/年)	705,460	680,758	664,351	650,530	606,523	616,236
q 下水道投入(kl/年)	48,802	48,749	47,727	46,691	35,700	40,027
r 農地還元(kl/年)	0	0	0	0	0	0
s その他(kl/年)	0	0	0	0	0	0
t 自家処理量(kl/年)	8,231	5,473	2,892	1,993	982	789

(注) c=(d/b) × 100

i=(j/b) × 100

(3) 処理槽の設置状況について

平成18年度の新規処理槽設置基数は5,574基（対前年度比93.7%）と、表-13のとおり年々減少しています。

また、平成18年度末における処理槽設置基数は271,213基で、図-9のとおり平成14年度をピークに年々減少しており、そのうち単独処理処理槽が190,947基と約7割を占めています。

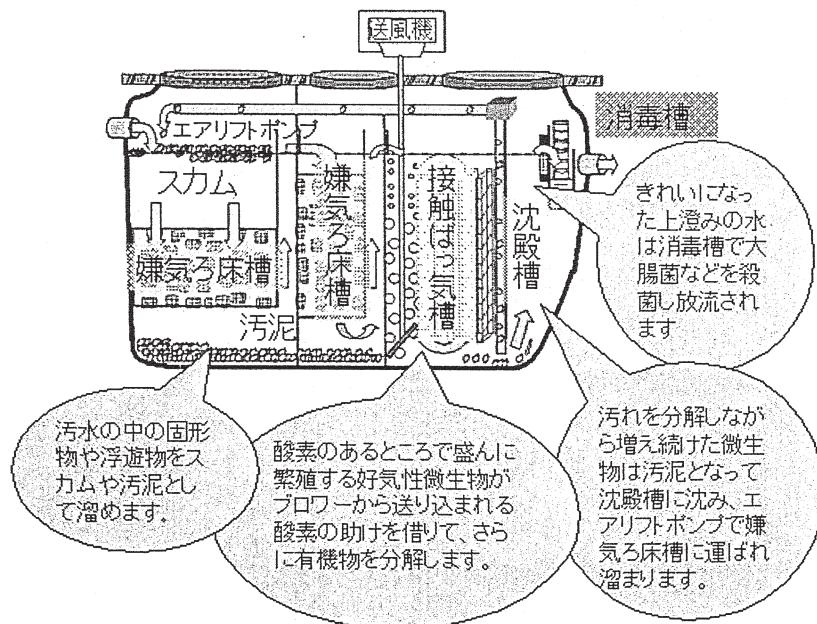
表-13 年度別新規設置基数

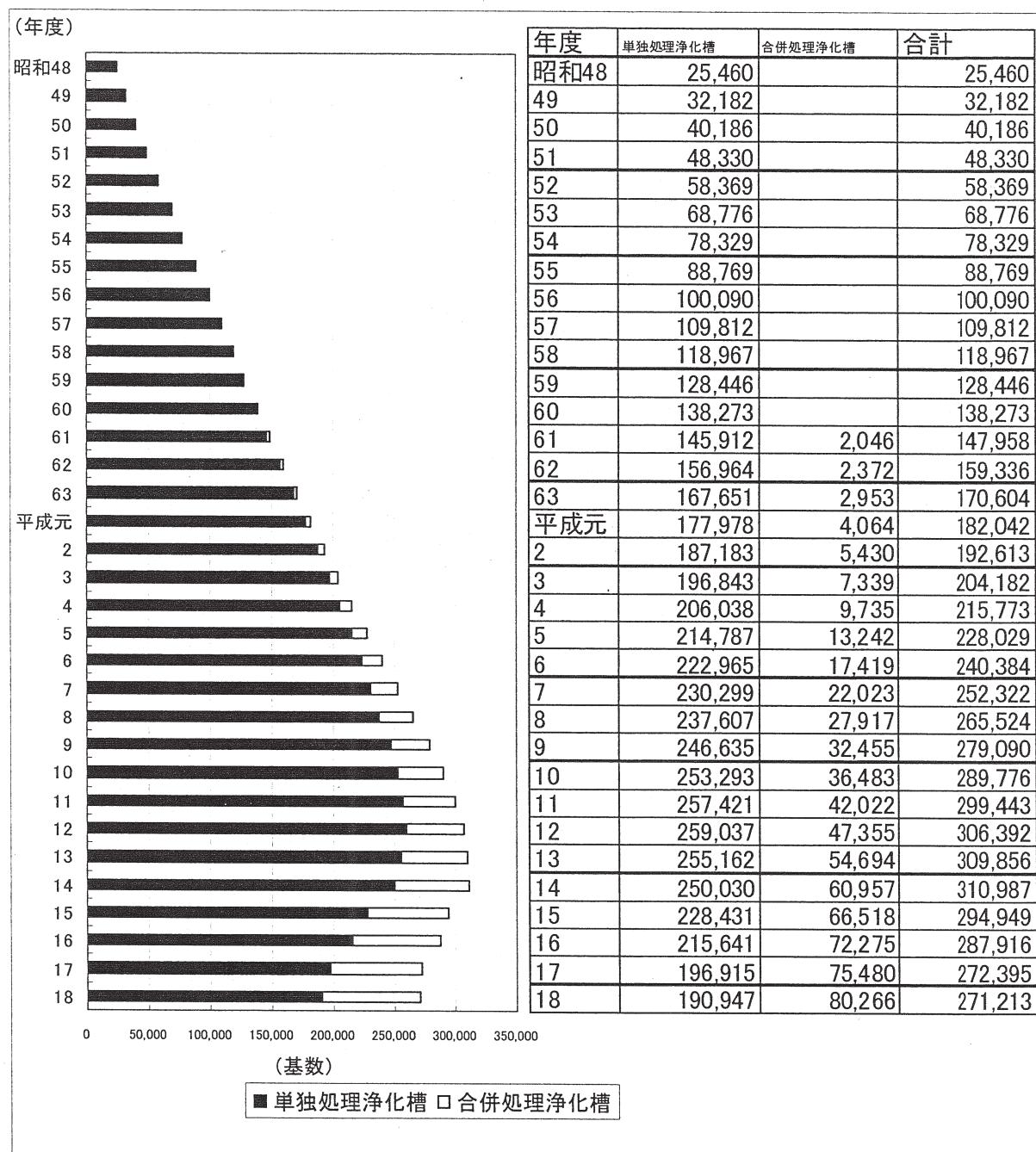
年度	13	14	15	16	17	18
基数	7,343	6,451	6,373	6,187	5,951	5,574

表-14 平成18年度末人槽別設置基数

人槽規模	5~20	21~100	101~200	201~500	501~	合計
基数	248,994	18,863	1,732	1,186	438	271,213

〈参考〉処理槽のしくみ（嫌気ろ床接触ばつ氣方式の例）





図－9 淨化槽設置基数の推移

